

## 福島県指定史跡

### 白川城跡(付)感忠銘碑(かんちゅうめいひ)

昭和二十八年十月一日指定

所在地白河市字藤沢一八番地ほか一三九筆

管理者 白河布教育委員会

白川城は別名搦目(からめ)城ともいう。

白河市街の東方、阿武隈川の南に連なる丘陵にあり、中央から北にかけて遺構郡がある。山頂の平坦部には空堀と土塁があつて、御本城山(館山)といわれ、ここが白川城の中枢部にあたる。それより北に半島状に伸びた二つの出丸(でまる)があり、その下の谷を下門入という。これが搦手(からめて)で搦目城の起源といわれている。御本城の東には谷を隔て鐘撞堂山、その東には美濃輪という谷がある。感忠銘のある絶壁の南には馬乗場、さらに南にひとつの壇跡があり、今は縮荷神社を祀っている。御本城山の北西方の字藤沢山には、延文五年(一三六〇)銘の供養塔が出土した平坦地があり、その他約二〇ヘクタールにわたり遺構が現存している。

源頼朝の奥州合戦のち白川庄の地頭となつた結城氏は宗広の代になつて威を張り源頼朝の奥州合戦のち白川庄の地頭となつた結城氏は宗広の代になつて威を張り、子親光と共に南党(吉野方)柱石として本城により勇戦し、元弘三年(一二三三)には太主義良親王と陸奥国司北畠顕家を白川の地に迎え、建武二年(一二三三)の西上、延元元年(一二三三)の下国、更に延元二年再び西上と、本城は南党の重要な拠点となつた遺構である。

感忠銘は城跡の一部である北東の搦目山二番地の断崖に宗広・親光親子の忠烈を後世に伝えるため、内山重濃が文化四年(一八〇七)に白河城主松平定信の感忠銘三文字を得て、広瀬典の撰文、千里啓が書いた磨崖碑である。

福島県教育委員会